



////////////////////////////////////

日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 75

Nov. 2019

今号のトピックス

2019 年度の講演会のお知らせがあります→ 2 ページ

日本植物分類学会第 19 回大会のご案内があります→ 4 ページ

CITES や植物検疫に関する重要なお知らせがあります→ 10-12 ページ
会費納入は 12 月末が期限です。ご協力お願いいたします→ 12 ページ

目 次

お知らせ

- 2019 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ 2
- 日本植物分類学会第 19 回大会（岐阜大会）、2020 年度総会
 ならびに公開シンポジウムのご案内 ... 4
- ワシントン条約第 7 条 6 項に基づく特定科学施設登録制度について10
- 植物防疫法の運用の一部改正による問題について11
- 会費納入のお願いと会費滞納者の名前掲載について 12

寄稿

- シノニムリストをつくろう（2）定番文献を付け加える 13
- 会員消息 16

お知らせ

2019 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 布施 静香

2019 年度の日本植物分類学会講演会を次のとおり開催いたします。今回は、6 名の先生方にご講演いただきます。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。なお、会場は大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただきます。

【日時】2019 年 12 月 14 日（土）午前 10 時～午後 5 時 05 分

【プログラム】

10:00-10:05 ご挨拶

10:05-10:55 稗田 真也

「琵琶湖における特定外来生物オオバナミズキンバイの分類・生活史・管理について」

10:55-11:45 本庄 三恵 「遺伝子の働きから見た植物の季節性」

(11:45-13:00 昼食)

13:00-14:00 池田 啓 「DNA 解析から改めて考える日本列島の高山植物相の成り立ち」

14:00-14:50 藤川 和美 「ヒマラヤから横断山脈、そしてミャンマーへ。植物標本を採集する」

(14:50-15:00 休憩)

15:00-16:00 能城 修一 「先史時代の西日本におけるイチイガシの重要性」

16:00-17:00 高宮 正之

「日本産シダ植物メシダ科ノコギリシダ属 *Diplazium* の分類に関する四半世紀の成果」

17:00-17:05 ご挨拶 林一彦

【講演会場】大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室 (02-B1-02 教室)

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南 2 丁目 36 番 1 号 (電話：06-6381-8434)

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

交通アクセス <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

キャンパスマップ <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/index.html>

【その他】

事前の参加申し込みは不要です。直接会場へお越しください。参加費は無料ですが、お茶代として 1 人 100 円のご協力をお願いします。

また講演会終了後、大阪学院大学職員食堂（17 号館 1 階）で懇親会を行います。懇親会の参加費は 4,000 円（院生・学部学生には割引あり）です。参加を希望される方は準備の都合がありますので、できるだけ事前に fuse_at_sys.bot.kyoto-u.ac.jp（_at_ を @ に置換してください）までご連絡ください。なお、当日申込も可能です。

【講演要旨】

「琵琶湖における特定外来生物オオバナミズキンバイの分類・生活史・管理について」

稗田 真也（滋賀県立大学環境科学研究科）

特定外来生物オオバナミズキンバイは米大陸原産の抽水植物で亜種オオバナミズキンバイ（6倍体）と亜種ウスゲオオバナミズキンバイ（10倍体）がある。形態と染色体から琵琶湖集団は亜種ウスゲであることを明らかにした。形態可塑性があり水中から陸上まで繁茂し茎断片や葉で分散、再生する。フランス集団は自家不和合性とされるが、琵琶湖集団には自家和合性があり、セイヨウミツバチなどが送粉する。種子は泥中保存後に高い発芽率を示す。水鳥の糞中に発芽可能な種子が含まれることがわかったため分布水系から離れていても注意が必要である。英国では侵入初期に対応し複数地点で根絶した。早期防除のために管理者責任を確立する必要がある。

「遺伝子の働きから見た植物の季節性」

本庄 三恵（京大大学生態学研究センター）

植物は季節を通して経験する温度ストレスや病害害に対し、様々な遺伝子を働かせて対応していると考えられる。しかし、自然生育地での遺伝子の働きについてその実態はほとんどわかっていない。最近、少量の葉から全ての遺伝子の発現を測定するRNAシーケンシング法を用いることで、自然環境下に生育する植物の季節性を研究することが可能となった。この手法を用いてアブラナ科の多年生草本ハクサンハタザオの遺伝子の働きを毎週測定し明らかにした。発表では、食害・病害防御に関わる遺伝子の季節性について紹介する。さらに、ハクサンハタザオとカブモザイクウイルスとの関係に着目し、植物が防御機構を季節によって変えながら長期に生育している様を紹介する。

「DNA解析から改めて考える日本列島の高山植物相の成り立ち」

池田 啓（岡山大学資源植物科学研究所）

日本列島の中部地方をはじめとする標高の高い山岳には、低地では見ることのできない高山植物が見られる。これらの植物は、過去（第四紀）の氷河時代に日本列島よりも北に位置する寒冷な地域から南下した起源をもつと考えられている。しかし、最近のDNA解析では、北方系の高山植物と思われるものであっても、日本列島から北方に分布を広げた歴史をもつ可能性のあることが示されてきた。本講演では、これまでのDNA解析の研究成果を振り返り、日本列島の高山植物相の成り立ちについて分かってきたことを解説する。

「ヒマラヤから横断山脈、そしてミャンマーへ。植物標本を採集する」

藤川 和美（高知県立牧野植物園）

生物種の実態を把握するためには、生きた植物を観察して調べ、記録となる標本の収集が欠かせない。これまで、海外学術調査隊に参加する機会をいただき、研究対象とする分類群を求めてヒマラヤ地域でフィールドワークを行ってきた。また、所属機関では、植物標本が十分に蓄積されていないミャンマーで、現地の共同研究者とともに植物多様性の解明を目指し標本採集を進めている。これら海外のフィールドワークを通じて得た地域植物相の特徴と現地調査の勘所を紹介する。

「先史時代の西日本におけるイチイガシの重要性」

能城 修一（明治大学）

ブナ科コナラ属のイチイガシの植物遺体は西日本の縄文時代から古墳時代の遺跡からは普通に出土する。その果実は、九州を中心として、約8000年前にはじまる縄文時代早期後葉以降、貯蔵穴の中から多量に見つかっており、そうしたイチイガシ果実の貯蔵は、稲作が導入された弥生時代においても北部九州を中心として検出されている。一方、イチイガシの木材は、近年の研究から、弥生時代から古墳時代の鋤や鋤の歯として、九州から関東地方南部において、もっぱら選択されていたことが明らかとなった。このように現在、照葉樹林が覆っている地域では、縄文時代から古墳時代にかけて、イチイガシの果実と木材は重要な資源として活用されていた。

「日本産シダ植物メシダ科ノギリシダ属 *Diplazium* の分類に関する四半世紀の成果」

高宮 正之 (熊本大学)

岩槻図鑑『日本の野生植物シダ』(1992) から、海老原図鑑『日本産シダ植物標準図鑑 2』(2017) の発刊まで 25 年が経過した。その間にさまざまな新事実が判明し、体系だけではなく種の取り扱いも大きく変貌した。本講演では、その期間私達が大きくかかわってきた *Diplazium* を取り上げ、変遷を紹介する。岩槻図鑑には 31 種 14 雑種だが、海老原図鑑には 31 種 25 雑種が掲載されている。単純に見れば新雑種が増えただけのようだが、属名の変更、他の科や属に移ったもの、種が分けられたもの、種から雑種・逆に雑種から種に変更されたものなど、さまざまな変更があった。

日本植物分類学会第 19 回大会 (岐阜大会), 2020 年度総会

ならびに公開シンポジウムのご案内

第 19 回大会会長 川窪 伸光

日本植物分類学会第 19 回大会を、2020 年 2 月 29 日 (土) ~ 3 月 3 日 (火) の日程で、岐阜大学柳戸キャンパス (岐阜市) にて開催いたします。皆様の参加を心からお待ちしております。

【本会場 (口頭発表, ポスター発表, 総会, 授賞式, 受賞記念講演, 公開シンポジウム)】

岐阜大学柳戸キャンパス (岐阜市柳戸 1-1)

全学共通教育講義棟 (口頭発表, ポスター発表, 総会, 授賞式, 受賞記念講演)
講堂 (公開シンポジウム)

詳しいアクセスは 10 ページならびに下記リンクをご参照ください。

柳戸キャンパスへの位置 <https://www.gifu-u.ac.jp/access/>

全学共通教育講義棟・講堂の位置 https://www.gifu-u.ac.jp/campus_map/

【各種委員会 (編集委員会, 評議委員会) 会場】

岐阜大学柳戸キャンパス 全学共通教育講義棟 講義室

詳しいアクセスは 10 ページならびに下記リンクをご参照ください。

全学共通教育講義棟の位置 https://www.gifu-u.ac.jp/campus_map/

【日程】 2020 年 2 月 29 日 (土) ~ 3 月 3 日 (火)

2 月 29 日 (土) 午後 各種委員会, 評議委員会 (全学共通教育講義棟 講義室)

3 月 1 日 (日) 午前 口頭発表 (大会発表賞エントリー者)

午後 公開シンポジウム

「植物誌の科学：身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦
～岐阜県植物誌から植物の世界を見る～」

夜 ポスター発表 前哨戦 (ポスター賞審査)

3 月 2 日 (月) 午前 口頭発表 (一般)・ポスター発表

午後 ポスター発表・総会・受賞講演

夜 懇親会 / 口頭・ポスター賞授与式 (ホテルグランヴェール岐山)

3 月 3 日 (火) 午前 口頭発表 (一般)

午後 口頭発表 (一般)

【第 19 回大会ホームページ】

発表・参加申込および発表要旨提出の方法や大会プログラムなど、第 19 回大会の情報を随時アップロードいたします。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/jsps19/>

【問い合わせ先】

大会実行委員長：川窪伸光

事務局長：須山知香

連絡先：日本植物分類学会第 19 回大会実行委員会

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学応用生物科学部 内

TEL: 058-293-2855 (川窪研究室)

E-mail: jsps19@gifu-u.ac.jp

(お問い合わせには、できるだけ電子メールをお使いください。メールのタイトルは、「大会問合せ」として下さい。)

【発表の要領】**●口頭発表**

発表時間は、講演 12 分、質疑応答 3 分の計 15 分の予定です。発表には液晶プロジェクターを使用しますが、発表用パソコンは各自でご用意ください。Apple 製品等、特殊な接続ケーブルが必要な場合は、変換コネクタ等を各自でご用意ください。

パワーポイント等のスライド作成にあたっては、色覚バリアフリープレゼンテーション法に関するサイト <http://cudo.jp/cbf/> を是非ご一読ください。

●ポスター

ポスター用ボード貼り付け可能範囲は、縦 170 cm x 横 100 cm です。貼り付け用の鋏などは、大会実行委員会でご用意いたします。ポスターは、3 月 1 日 (日) 13 時までに貼り付けし、3 月 3 日 (火) 12 時までに撤去してください。

【発表・参加申込方法】

大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずにご参加いただけますが、口頭発表およびポスター発表の演者（実際に発表する方）は、特に大会実行委員会から依頼した場合を除き、会員に限ります。非会員の演者（実際に発表する方）は、申込と同時に日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。発表・参加申込は、次のどちらかの方法で行ってください。

1) 電子メールでの申込み

第 19 回大会ホームページ (<https://www1.gifu-u.ac.jp/jsps19/>) から、「発表・参加申込書」の Word または PDF ファイルをダウンロードし、それに必要事項を記入した後（あるいは、本ニュースレターの「発表・参加申込書」にしたがって必要事項を記入して）、メールのタイトルを「大会申込」として、第 19 回大会の専用アドレス jsps19@gifu-u.ac.jp 宛てに添付ファイルで送信して下さい。添付ファイル名は、ご自身のフルネームをお使い下さい。送信してから 3 日経っても（土日・祝日を除く）受付の連絡メールが届かない場合は、メールの件名を「大会申込確認（参加者氏名）」とし、jsps19@gifu-u.ac.jp 宛てまでご連絡ください。

2) 郵送による申込

インターネットを利用できない方は、本ニュースレター案内に記載されている「発表・参加申込書」に必要な事項を記入の上、下記まで郵送にてお送りください。その際には、締切日必着といたします。

郵送先：〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学応用生物科学部 内

日本植物分類学会第 19 回大会実行委員会 宛

【大会参加・発表申込の締切日】

1) 演者（実際に発表する方）：発表・参加申込 / 大会・懇親会参加費，弁当代等振込

1月20日（月）必着

2) 演者以外：参加申込 / 大会・懇親会参加費，弁当代等振込

1月31日（金）必着

2月1日（土）以降は大会・懇親会参加費が増額されますので，なるべくお早めにお申し込みください。
また，2月1日（土）以降は振込まず，当日参加をご利用ください。

【大会発表賞へのエントリー】

大会発表賞へのエントリーは，日本植物分類学会の会員で，パーマネント・ポストについていない研究者（年齢制限はありません）で，筆頭発表者かつ演者（実際に発表する方）本人に限ります。大会発表賞へエントリーされる方は，発表・参加申込書「8. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリー」の項目で，「(1) する」を選択してください。

【発表要旨の提出】

発表要旨の原稿は，下記の作成例にしたがってマイクロソフト・ワードを用いて作成して下さい。A4 縦に12ポイントのMS明朝あるいはMSゴシックのフォントのみを用い，発表題目（MSゴシック），一行空白，発表者氏名（かっこ内に所属），発表者氏名（英語），一行空白，要旨本文の順に記入し，実際に発表をする演者の右肩に「*」を入れて下さい。また，発表要旨の本文は最大650字までとして下さい。発表要旨に図表は使用できません。なお，印刷の都合で体裁を変更する場合がありますので，あらかじめご了承ください。

作成した発表要旨のワード・ファイルは，電子メールの添付ファイル（ご自身のフルネームをファイル名として下さい）として，jsps19@gifu-u.ac.jp宛てに送信して下さい。発表要旨の送信は，演者（実際に発表する方）が行い，電子メールのタイトルは「発表要旨（演者氏名）」として下さい。発表要旨を送信してから3日経っても，発表要旨受付の連絡メールが届かない場合は，メールの件名を「発表要旨受付確認（演者氏名）」とし，jsps19@gifu-u.ac.jpまでご連絡ください。

ワードを用いて発表要旨を作成するのが困難な方，あるいは電子メールで発表要旨ファイルを送信するのが困難な方は，大会実行委員会まで早めにご相談下さい。

要旨例（A4 タテ）

岐阜県山県郡伊自良村で発見したムラサキシキブ

{一行空白}

岐阜太郎*（岐阜大・教育・理科）・柳戸次郎（山県短大・理・生物）

Taro GIFU*, Jiro YANAGITO

{一行空白}

2023年，岐阜県山県郡の山中にて，コムラサキ，ムラサキシキブ，ヤブムラサキの3種のすべての形質を備えた奇妙な株を発見した。この植物は，・・・（650字まで）

【発表要旨提出の締切】 1月20日（月）24:00

【参加費】

●大会参加費（発表要旨集1冊代金を含む）

1) 事前申込（1月31日（金）までの振込） 一般4,000円，学生2,000円

2) 当日参加申込 一般5,000円，学生3,000円

●懇親会参加費：

- 1) 事前申込（1月31日（金）までの振込） 一般 6,000 円， 学生 3,000 円
 2) 当日参加申込 一般 7,000 円， 学生 4,000 円

●3月1日（日）の昼食弁当代 1,000 円

【参加費送金先】（12月初旬に口座が有効になります）

郵便振替口座番号：00890-8-189524

口座名義：日本植物分類学会第 19 回大会実行委員会

同封の振替用紙にて、振込金額の内訳（大会参加費、懇親会参加費、弁当代等）を通信欄に必ず記入の上、ご送金ください（振込手数料はご自身でご負担ください）。同封されている郵便振替用紙には、2種類あります。大会参加費振込用と会費納入用です。お間違えないように参加費振込用紙をご使用ください。また、振込者と参加者は同一にしてください。参加申込の際に、振込日と振込郵便局をご記入いただきますので、振込を終えてから参加申込を行なってください。

銀行等から振込む場合は、ゆうちょ銀行の受取（振込先）口座として下記内容をご指定下さい。
 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）店（089）預金種目：当座 口座番号：0189524

■大会参加の各締切

区分	項目	締切
発表する人 (演者)	大会参加費 / 懇親会 / 昼食弁当代の振込 一般 4,000 円 / 6,000 円 / 1,000 円 学生 2,000 円 / 3,000 円 / 1,000 円	発表申込より前
	発表・参加申込 電子メール・郵送	1月20日（月）
	発表要旨登録 電子メール	1月20日（月）24:00
参加する人 (演者でない共同発表者を含む)	大会参加費 / 懇親会 / 昼食弁当代の振込 一般 4,000 円 / 6,000 円 / 1,000 円 学生 2,000 円 / 3,000 円 / 1,000 円	参加申込より前
	参加登録 電子メール・郵送	1月31日（金）必着
当日参加の人 (2月1日以降は当日参加をご利用ください)	会場受付で参加申込・支払 大会参加費 / 懇親会 一般 5,000 円 / 7,000 円 学生 3,000 円 / 4,000 円	

【懇親会】

岐阜駅にほど近い、岐阜市柳ヶ瀬にあるホテルグランヴェール岐山 (<https://grandvert.com/>) で行います。学会会場の岐阜大学柳戸キャンパスから、無料バスを運行します。

【昼食】

岐阜大学柳戸キャンパス内（大学構内）には生協食堂売店、コンビニ・ミニストップがあります。また、キャンパス周辺（徒歩 15 分圏内）には各種レストランがあります（参加受付にて、食堂マップを配布いたします）。3月1日は日曜日ですので、キャンパス内の生協食堂売店は営業していませんが、コンビニ、キャンパス周辺レストランは営業しています。しかし、3月1日（日）の午後は公開シンポジウムですので、

十分な時間的余裕を作るために、お弁当を予約制で用意いたします。事前申込の際に一緒にお申込みください。

【宿泊施設】

宿泊施設は各自でご予約ください。最近、岐阜駅前の宿泊施設は込み合っていますので、お早めのご予約をお薦めいたします。会場である岐阜大学周辺には宿泊施設はありませんので、岐阜駅周辺をお勧めします。岐阜駅から徒歩15分ほどで、懇親会会場でもある「ホテルグランヴェール岐山」は、飲食店街の柳ヶ瀬地区の大きな宿泊施設です(公立学校共済組合割引あります)。また、名古屋駅から岐阜駅は、JRの快速で約20分ですので、名古屋駅周辺の宿予約も検討できます。岐阜駅から岐阜大学柳戸キャンパスへは、バスで約25分、タクシーで約20分です。

【託児について】

現時点で託児室の開設は予定しておりませんが、ご希望の場合は、12月末日までに大会実行委員会までご相談ください。希望者がいらっしゃる場合は、開設を検討いたします。

【公開シンポジウム】

「植物誌の科学：身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦 ～岐阜県植物誌から植物の世界を見る～」と題した公開シンポジウムを以下のプログラムで予定しております。一般公開で、参加無料です。詳細は大会ホームページでもお知らせいたします。

開催日：2020年3月1日(日)

会場：岐阜大学講堂(岐阜大学柳戸キャンパス内)

テーマ：「植物誌の科学：身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦

～岐阜県植物誌から植物の世界を見る～」

- 13：00-13：10 川窪 伸光(岐阜大学) 趣旨説明
 13：10-13：40 矢原 徹一(九州大学) 「植物誌調査の新しい方法：
 九大新キャンパスでの全種調査から屋久島へ、そして東南アジアへ」
 13：45-14：15 伊藤 元己(東京大学) 「植物誌に基づくデータベース構築への挑戦(仮題)」
 14：20-14：50 藤井 伸二(人間環境大学) 「なぜ身近な植物が絶滅するのか?：標本が語る過去と今」
 15：00-15：30 高橋 弘(岐阜大学名誉教授)
 「岐阜県植物誌 完成までの道のりと岐阜県に特徴的な植物」
 15：35-16：05 福岡 義洋(名古屋市立楠西小学校)
 「岐阜県植物誌はプロとアマが蓄積した植物標本によって完成した」
 16：10-16：40 須山 知香(岐阜大学) 「地方大学ならではの植物標本庫生残り戦略」
 16：45-17：15 総合討論

●【お願い】公開シンポジウム「植物誌の科学：身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦」に因みまして、皆さんお住まいの県市町村植物誌を集め、日本の地域植物誌の斉展示を学会会場で行いたいと考えております。そのために、お住まいの県市町村植物誌をお持ち頂き、分類学会大会中の展示用貸与をお願いしたいのです。さらに、もし可能であれば、植物誌を岐阜大学図書館に寄贈していただければ大変光栄です。寄贈いただいた植物誌は、大学図書館登録管理のもと永久保存を図るとともに、岐阜大学教育学部に新設された植物標本室と同様に、多くの市民植物愛好家、研究者に利用していただけるようにしたいと考えております。賛同、ご協力頂ける場合には、川窪伸光(大会会長、e-mail: kawakubo_at_gifu-u.ac.jp (atを@に置換してください)) 研究室電話：058-293-2855)まで、ご連絡いただけると幸いです。よろしくご検討ください。

日本植物分類学会第 19 回大会「発表・参加申込書」

必要事項をご記入の上、ニュースレターに記載の宛先まで郵送してください。
発表の申込締切は 2020 年 1 月 20 日（月）必着です。

1. 氏名（ふりがな、またはローマ字）：
2. 所属：
3. 所属の短縮表記：
4. 連絡先住所：〒
5. Tel & Fax:
6. E-mail アドレス：
7. 研究発表
 する：(1) 口頭発表 (2) ポスター発表 (3) どちらでも良い
 しない：(4) 発表しない (5) 共同研究者が発表する(実際に発表する方の氏名：)
8. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリー：(1) する (2) しない
9. 発表タイトル：
10. 全発表者氏名・所属（実際に発表する方の氏名の右肩に*印）：
11. 全発表者氏名のローマ字表記：
12. 現在求職中の表示の希望：(1) 希望する (2) 希望しない
13. 大会参加費（振込は 1 月 31 日まで。それ以降は当日参加となります）： 円
 一般 4,000 円 学生 2,000 円
14. 懇親会：(1) 参加する (2) 参加しない
15. 懇親会費（振込は 1 月 31 日まで。それ以降は当日参加となります）： 円
 一般 6,000 円 学生 3,000 円
16. 昼食弁当：(1) 3 月 1 日（日）1,000 円 (2) 申し込まない
17. 13, 15, 16 の合計金額： 円
18. 振込郵便局名：
19. 振込日： 月 日
 郵便振替口座番号：00890-8-189524
 口座名義：日本植物分類学会第 19 回大会実行委員会

【大会会場へのアクセス】

本会場・各種委員会会場（岐阜大学 柳戸キャンパス 全学共通教育講義棟）

●中部国際空港（セントレア）から岐阜へ

中部国際空港から、名鉄・空港特急 / ミュースカイ（全車特別車）で、名鉄岐阜駅まで約 57 分（1,340 円 + ミューチケット 360 円）。その他、特急（一部指定）等も利用可能です。なお、空港から岐阜市方面への直通バスはありません。

●県営名古屋空港（旧名古屋空港）から岐阜へ

フジドリームエアラインズ（FDA）により、2019 年 11 月現在、県営名古屋空港と、青森、花巻、山形、新潟、出雲、高知、福岡、熊本、札幌（新千歳）[乗継] の各空港を結んで運航しています。しかし、県営名古屋空港から岐阜への直通バスはありません。高速バス（大人片道 700 円、所要時間約 30 分、あおい交通）で、名古屋駅を経由し、鉄道利用により岐阜までお越し下さい。

●名古屋駅（＝新幹線名古屋駅）から岐阜へ

1. JR 名古屋駅から東海道本線で、岐阜駅まで快速で約 20 分
2. 名鉄名古屋駅（JR 名古屋駅隣り）から名鉄名古屋本線で、名鉄岐阜駅まで約 30 分

●岐阜駅前から大会会場（岐阜大学柳戸キャンパス）へ

バス利用の場合、約 30 分～ 35 分 / 330 円、タクシー利用の場合は約 20 分 / 3000 円程度です。

【バス利用の場合の乗り場】

JR 岐阜駅（9 番のりば）・名鉄岐阜駅（4 番 / 5 番 / E のりば*）から発車されるバスの要時間は約 30 ～ 35 分です（所要時間はおおよその目安であり、交通事情により異なる場合がありますので、余裕を持ってお越し下さい）。

なお、JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅ともに、N 系統（N45）より、C 系統（C70, C71, C72）：岐阜大学・病院線（忠節経由）が、所要時間が短く、大変便利です。

➔ 岐阜バス：<http://www.gifubus.co.jp/rosen/>

学会開催期間中の平日は平日学休日ダイヤ（2 月中旬～ 4 月上旬）の見込み、土曜・日曜日は休日ダイヤです。2 月上旬に学休日ダイヤが確定後に、ダイヤをご確認ください。

➔ 岐阜バスのりば案内：<http://www.gifubus.co.jp/rosen/noriba/>

* 名鉄岐阜駅からは便によって乗り場が異なります。時刻表とあわせて乗り場をご確認ください。

●自動車でお越しの場合

岐阜大学柳戸キャンパス内には各所に駐車スペースがあります。学会参加者は利用可能です。しかし利用には臨時入構許可証が必要です。入構許可証は、岐阜大学入り口のすぐ左側の駐車管理受付で交付されます。一度、その受付を通り過ぎ、直後に、左折して一時駐車場に車を止めて下車し、徒歩で受付に行き手続きを済ませてください。自動車の登録ナンバーと「植物分類学会参加のため」等を台帳に記入頂ければ、入構許可証（紙）が交付されます。その入構許可証を運転席ダッシュボードの上に掲示すれば、入構ゲートが開放され、駐車場へ進めます。駐車場はキャンパスの周回路に沿って散在しており、特別な表示がない限り、どの駐車スペースでも利用可能です。

ワシントン条約第 7 条 6 項に基づく特定科学施設登録制度について

標本問題対応委員会 田中 伸幸

ご存知の通り、ワシントン条約（CITES）は、絶滅の恐れのある動植物の国際商業取引に関する条約

であり、学術研究での同条約掲載種を輸入または輸出する場合、学術研究目的であることを証明する証明書の添付が義務付けられています。しかし、この規制によって支障が生じる博物館などの間の国際的な標本や学術研究を主とする植物園の間の生植物の交換については、ワシントン条約第7条6項に、登録された特定科学研究施設の間では、証明書の添付を要せずに輸出入ができる制度が設けられており、その制度を取り入れるかどうかは各国のワシントン条約担当部局の判断に委ねられています。世界の多くの国では、この制度を取り入れています。先進諸国の中では日本だけが登録制度がありませんでした。このことで、例えば以下のような不利益を被っていました。1) 国際的なハーバリウム間の交換標本にCITES掲載種を入れることができないため、日本のハーバリウムには海外から特定グループ（例えばラン科など）の標本が収集できない、2) 掲載種あるいはそれが属するグループの標本の同定依頼を日本へ送ることができない、3) 海外のハーバリウムから掲載種の標本を借用できない、4) 登録された特定科学研究施設にしか標本を送付しないオーストラリアなどからは、そもそも日本へ標本が送付できない、5) 日本のハーバリウムからローンに出した標本が返却される際に、証明書が添付されていないと返送されてしまう、などさまざまな問題がありました。

この問題は10年以上の懸案事項となっており、以前より当学会からも働きかけが行われていましたが、制度の策定には至っておりませんでした。そこで、昨年3月初めに、経済産業省の担当部局へ再度申し入れを行い、この制度の構築に本格的に取り組んでもらうことになりました。4月より関係省庁との調整を行ってもらい、3回にわたる検討会議が開催され、令和元年10月1日より、日本で初めてワシントン条約第7条6項に基づく特定科学研究施設登録制度が発足しました。

つきましては、日本の代表的なハーバリウムは、特定科学研究施設としての登録をお勧めいたします。届出の方法などについて、以下の経済産業省ウェブサイトよりご覧いただけます。

■外国の科学施設との間でワシントン条約の対象貨物の交換等をされる科学施設の方へ

https://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/02_exandim/06_washington/kagakushisetsu.html

なお、本制度に関する分類学会会員からの問い合わせについては、標本問題対応委員会が取りまとめを行うことになっておりますので、以下の連絡先へお願いいたします。

【お問い合わせ先】 国立科学博物館 植物研究部 田中伸幸
nobuyuki_tanaka_at_kahaku.go.jp (_at_ を @ に置換してください)
TEL: 029-853-8979

植物防疫法の運用の一部改正による問題について

標本問題対応委員会 田中 伸幸

これまで海外からの携行品、郵送品、別送品として送付された乾燥植物標本につきましては、原産国の検査証明書の添付がなくても空港あるいは日本郵便外郵出張所などにて、検査官による植物防疫検査を経て輸入ができました。

ところが、昨年10月より植物防疫法の運用規則の一部改正があり、すべての携行品、郵送品、別送品として輸入される植物（菌類、地衣類、藻類は対象外）には、腊葉標本も含めて検査証明書(phytosanitary certificate)の添付が義務付けられました。添付無き場合は、廃棄されます。ただ、この廃棄には2通りの選択肢、(1) 焼却、(2) 返送があります。

このため、標本が焼却、返送され、研究資料が入らなくなるなど前項のCITES問題と一種同じような状況になっていましたが、CITESは掲載種だけの問題ですが、この問題は全標本に対するもので、より深刻な問題でした。標本をいわば“安全な”ハーバリウムから出して、農業機関へ持参し、検査のために何日間も放置しておくことなどの方が問題です。さらに、交換標本やローンのために高額で時間や労力が

かかる検査証明書の取得はほとんどのハーバリウムで現実的ではありません。

そこで、標本問題対応委員会は、現状の把握のために皆様へのアンケートを実施し、それらに基づいて関係部局（農林水産省消費・安全局植物防疫課）に運用見直しの交渉を続けてまいりました。その甲斐あって、この度、農林水産省より、植物防疫法施行規則の改正案が示されました。腊葉標本だけではなくさまざまな形状の乾燥試料に対して配慮がされています。以下のウェブサイトで参照することができます。

■植物防疫法施行規則（昭和 25 年農林省令第 73 号）

第 5 条の 3（検査証明書の添付を要しない植物）の改正案について

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000193319>

これが正式に決まれば、腊葉標本だけではなく、乾燥植物試料（DNA 解析用葉片、成分解析用破碎サンプルなど）が、明記されている種類の物品を除いて検査証明書の添付を要しないで輸入できるようになります。パブリックコメント（11/15 締切）を経て正式決定となりますので、正式決定後には、再度本会メーリングリストにて周知いたします。

会費納入のお願いと会費滞納者の名前掲載について

会計幹事 厚井 聡

来年度（2020 年 1～12 月）の会費について、2019 年 12 月末までに納付してください（前納制；団体会員を除く）。適正な学会運営のために、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

- ・ 本号封筒の宛名ラベルに「納入済み」年度が表示されています。2020 年度分まで納入済みになるよう、「金額」に記載されている未納分と来年度分の合計金額をお振込みください。
- ・ 同封された郵便振替用紙をご利用ください。振込先は「郵便振替口座番号：00120-9-41247（加入者名：日本植物分類学会）」です。
- ・ 本号封筒の宛名ラベルに「自動振替」「会費免除」と表示されている方は、振替で納付する必要はありません。
- ・ 長期滞納者に対しては、規約第 10 条（2）に基づき、除名を行っております。ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

寄稿

シノニムリストをつくらう (2) 定番文献を付け加える

黒沢 高秀 (福島大学共生システム理工学類)

はじめに

シノニムリストにはそれぞれの学名が使われた文献が列挙してあります。文献は、一般的な論文の引用文献欄のように、著者、文献 (ただし、著書も雑誌も決められた略号。前回参照)、ページ、発表年が記してあります (ただし、ページは論文の最初から最後までではなく、その学名の分類学的な取扱がなされるページです)。最初に発表された文献が特定できると共に、使われた学名の変遷がわかるようになっています。そのため、「まだ種のランクで正式発表された学名がないので新たな学名を作らなければならない」とか、「この属の下での学名がないので新組合せを発表しなければならない」なども特定できます。シノニムリストに列挙する文献は、新学名や新組合せの発表を含む文献や、その学名の使用にそれなりの考えや責任を持った文献、すなわち分類学的取扱 taxonomic treatment を含んだものや植物誌 flora などに限るのが一般的です。

といっても、日本の維管束植物のようにそのような文献が多数出版されている場合、すべて網羅するのは紙面のスペースを使う割に情報量に乏しく、また労力の割に得るものが少ない植物も多いでしょう。どこまでの文献を網羅するかは、合理的な判断が必要だと思います。学名の取り扱いが正しいかを判断するためには、古い文献はなるべく網羅した方が良いですが、最近の文献はそれほど掲載しなくても良いかもしれません。あまり分類学的に混乱がない植物は、主要な文献だけで良いかもしれません。一方で、分類が混乱していた植物や、人によって、あるいは同じ人でも文献によって使っている学名が頻繁に変わるような植物は、なるべく網羅した方が良いでしょう。

日本の種子植物のシノニムリストであれば、これは必ず掲載して欲しいという文献を「必須文献」、必要に応じてできるだけ掲載して欲しい文献を「定番文献」として、後段に掲載します (シダ植物は多少異なります)。分類学的取扱を含む論文を執筆する際は、少なくとも必須文献と定番文献でどのように扱われているかは確認する必要があると思います (シノニムリストに全部を掲載しないとしても)。

シノニムリストの作り方2「定番文献を付け加える。」

シノニムリストを作成している時に文献を付け加える際、手で入力すると手間がかかりますし、慣れないと入力ミスを頻発します。よく使う文献はリストにしておいて、コピー&ペーストすると良いでしょう。後段に掲載している必須文献と定番文献のテキストも活用して下さい。

- 2-1. 後段の必須文献・定番文献を見て、どのような学名が使われているか、その学名はどのような範囲で扱われているかを調べる。新しい文献、見慣れている文献から始めると良い。
- 2-2. 前回の (1) で作ったシノニムリストの原型に、後述の必須文献・定番文献を出版年順に付け加える。ページは学名が掲載されているページ (偶然2ページにわたるときは、最初のページ)。文献が既に (1) で作ったシノニムリストに含まれているときは、ページや学名の扱われ方などが正しかったか、確認する。シノニムリストは他の文献のシノニムリストをそのまま写しているだけの場合も多いようで、まじめに原著に当たると結構間違いが見つかります (Shutoh et al. 2017 の Taxonomic treatment の Note にそのような例が記されています)。
 - ・作っているシノニムリストでシノニムとして扱う2つ以上の学名をどちらも認めている場合は、それぞれに付け加える (例: 後述のナガハシスミレの Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed.)
- 2-3. 抜けているシノニムが引用されているときは、加えておく。
- 2-4. 「新称」「nov.」など、新和名を示す言葉が含まれているときは、和名も書き加えていく。
- 2-5. 取り扱いが疑問なところ、不明なところ、後で要検討なところなどは、前回のように網掛などにしておく。また、まだ確認していない文献も網掛などにしておく。
- 2-6. よく見直す。カンマ、コンマ、セミコロン、イタリックなどの字体指定などにも注意。

必須文献

- Flora Japonica: Thunberg, Fl. Jap. (1784)
- Prodromus Systematis Naturalis Regni Vegetabilis: Candolle, Prodr. (1823–1873) (Biodiversity Heritage Library (以下 BHL) で公開 <https://www.biodiversitylibrary.org/> 世界の植物のモノグラフであり、日本の植物も結構網羅されている。
- Flora Japonica: Siebold & Zuccarini, Fl. Jap. (1835–1870) (京都大学電子図書館貴重資料画像で公開 <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>)
- Annales Musei Botanici Lugduno-batavi: Muquel in Ann. Mus. Lugd.-Bat. (1863-1870) (BHL で公開)
- Enumeratio Plantarum in Japonica Sponte Crescentium: Franchet & Savatier, Enum. Pl. Jap. (1875–1879) (BHL で公開)
- Enumeratio Spermatophytarum Japonicarum 日本種子植物集覧 : Hara, Enum. Sperm. Jap. (1948–1954)
完成度の高いシノニムリストを含む。残念ながら未完 (合併, および離弁のフウロソウ科からミズキ科まで)
- Flora of Japan: Iwatsuki et al., Fl. Jap. (1993–)
分担執筆であることに注意。Akiyama et al. in Iwatsuki et al., Fl. Jap. 2c: 183 (1999). のように引用。新組合せなどが発表されていることがある。

定番文献

- Nippon Shokubutsumei 日本植物名彙 : Matsumura, Nippon Shokubutsumei (1884) (ed. 1 国立国会図書館近代デジタルライブラリー (以下国立国会図書館 DL) <http://dl.ndl.go.jp/> で閲覧可能。ed. 2 (1895)。ed. 3 (1897, Taxonomic Literature では 1900 となっているが、これはおそらく増刷したもの)。ed. 9 (1915–1916)。ed. 2 以降の正確な名称は Shokubutsu Mei-i 改正増補植物名彙。よく用いられるのは ed. 1, ed. 2, ed. 9)
日本最初の植物の総覧。現在と学名や和名の扱いが異なること多いので、注意が必要。
- Index Plantarum Japonicarum 帝国植物名鑑 : Matsumura, Index Pl. Jap. (1904–1912) (国立国会図書館 DL で閲覧可能)
- Flora of Japan 日本植物総覧 : Makino & Nemoto, Fl. Jap. (1925)
牧野富太郎が関わった最初の植物総覧。新和名を多く含む。
- Flora of Japan, second edition 改訂増補日本植物総覧 : Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed. (1931)
- Flora of Japan, Supplement 日本植物総覧補遺 : Nemoto, Fl. Jap. suppl. (1936)
- Illustrated Flora of Nippon 牧野日本植物図鑑 : Makino, Ill. Fl. Nippon (1940)
すべての植物が掲載されているわけではないことに注意。
- Nomina Plantarum Japonicarum 日本植物名彙 : Honda, Nom. Pl. Jap. (1939)
- Nomina Plantarum Japonicarum, editio emendata 改訂日本植物名彙 : Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1957)
品種などが沢山掲載されている。
- Nomina Plantarum Japonicarum, editio emendata 改訂日本植物名彙 : Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963)
- Flora of Japan 日本植物誌 : Ohwi, Fl. Jap. (1953)
- Flora of Japan, in English: Ohwi, Fl. Jap. ed. Engl. (1965)
分類群によっては、Meyer & Walker, Ohwi Fl. Jap. としても良いくらい、独自の見解を含む。IPNI の Publication ではこちらが Fl. Jap., revised ed., [Ohwi] (1965) となっている。おそらく混同による。
- Flora of Japan, revised edition 改訂新版日本植物誌 : Ohwi, Fl. Jap. rev. ed. (1965)
- Flora of Japan, new edition revised and enlarged 改訂増補新版日本植物誌 : Ohwi, Fl. Jap. new ed. rev. enl. (1975)
- New Flora of Japan 新日本植物誌 : Ohwi & Kitagawa, New Fl. Jap. (1983)

- 大井の死後改訂されたが、琉球が沖縄に一括変換されているなど、注意が必要な文献としても知られる。
- Keys to Herbaceous Plants of Japan 日本草本植物総検索誌: Sugimoto, Keys Herb. Pl. Jap. (1965–1973) (I 双子葉, II 単子葉)
品種などが沢山掲載されている。新学名や新和名を多数含む。裸名など命名規約に従っていない学名も多いので注意が必要。双子葉篇, 単子葉篇, シダ篇があり, Sugimoto, Keys Herb. Pl. Jap. I, Dicot.: 312 (1965) のように引用。
- Keys to Woody Plants of Japan 日本樹木総検索誌: Sugimoto, Keys Wood Pl. Jap. (1961)
- Colored Illustrations of Herbaceous Plants of Japan 原色日本植物図鑑草本編: Kitamura & Murata, Col. III. Herb. Pl. Jap. (1957–1964)
III 単子葉は小山鐵夫が著者に加わっているため Kitamura et al., Col. III. Herb. Pl. Jap. III, Monocot. (1964)
- Colored Illustrations of Woody Plants of Japan 原色日本植物図鑑木本編: Kitamura & Murata, Col. III. Woody Pl. Jap. (1971–1979)
- Wild Flowers of Japan Herbaceous Plants (Including Dwarf Subshrubs) 日本の野生植物草本: Satake et al., Wild Flow. Jap. Herb. Pl. (1981–1982)
分担執筆なので, Momiyama in Satake et al., Wild Flow. Jap. Herb. Pl. 2: 251 (1982) のように記す。
- Wild Flowers of Japan Woody Plants 日本の野生植物木本: Satake et al., Wild Flow. Jap. Woody Pl. (1989)
- Wild Flowers of Japan 改訂新版日本の野生植物: Ohashi et al., Wild Flow. Jap. (2015–2017)

ナガハシスミレの例

ナガハシスミレ (牧野 1903) (ナガバシスミレ), テングスミレ, ナガフスミレ, ヒロハナガバシスミレ, ハイナガハシスミレ (長澤 1938), エダウチナガハシスミレ (長澤 1938)

***Viola rostrata* Pursh var. *japonica* (W. Becker et H. Boissieu) Ohwi**

Viola rostrata Pursh var. *japonica* (W. Becker et H. Boissieu) Ohwi in Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo no. 33: 80 (1953); [Fl. Jap.: 794 (Mar. 1953), comb. nud.]; Kitamura & Murata, Col. III. Herb. Pl. Jap. 2: 56 (1961); Ohwi, Fl. Jap. ed. Engl.: 639 (1965); Ohwi, Fl. Jap. rev. ed.: 920 (1972); Momiyama in Satake et al., Wild Flow. Jap. Herb. Pl. 2: 251 (1982); Ohwi & Kitagawa, New Fl. Jap.: 1039 (1983); Akiyama et al. in Iwatsuki et al., Fl. Jap. 2c: 183 (1999). ---- *Viola rostrata* Pursh subsp. *japonica* W. Becker et H. Boissieu in Bull. Herb. Boiss. ser. 2, 8: 742 (1908); Nakai in Bot. Mag. (Tokyo) 34: (90) (1922); Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed.: 767 (1931); Nemoto, Fl. Jap. suppl.: 496(1936).

Viola rostrata Pursh f. *radicans* M. Nagas. in Yasô 4: 62 (1938); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963).

Viola rostrata Pursh f. *ramosa* M. Nagas. in Yasô 4: 63 (1938); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963).

Viola rostrata Pursh f. *alpina* E. Hama in J. Jap. Bot. 51: 339 (1976).

[*Viola inconciana* F. Maek. et T. Hashim., Violets Jap.: 9 (1963), nom. nud.]

Viola rostrata Pursh, Fl. Amer. Sept. 1: 174 (1814); Makino in Bot. Mag. (Tokyo) 16: 137 (1902); Matsumura, Ind. II-2: 387 (1912); Miyabe et Kudo in Trans. Sapporo Nat. Hist. 6: 172 (1917); Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed.: 767 (1931); Nagasawa in Yasô 4: 62 (1938); Hara in J. Fac. Sci. Univ. Tokyo sect. 3, 4(2): 85 (1952); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963); Hashimoto, Index Violets Jap.: 18 (1967), var. *rostrata*; Hama, Wild Violets Jap. Col.: 47, t. 2 (1975).

